

出島メッセ長崎



写真 石井紀久

外観

長崎の風景に溶け込む低層でのびやかなデザイン。ガラスを中心に構成した透明感のあるファサードは、長崎の新しい交流拠点にふさわしく、人々のアクティビティがあふれ出るようなにぎわいを創出する。



写真 石井紀久

ペDESTリアンデッキ

来場者の利便性向上ため、JR長崎駅から施設2Fホワイエへと、直接アクセスが可能なペDESTリアンデッキ。施設背面にある、浦上川に面したリバーサイドデッキは、稲佐山を眺められる市民の憩いの場となっている。



ホワイエ

ホワイエを中心とした明解な配置計画で、目的の場所へ迷わず行ける動線を確保。壁面は、あじさいや長崎伝統の風「ハタ」をイメージして、木毛板の三角形のピースを組み合わせた意匠で、長崎らしさを演出している。

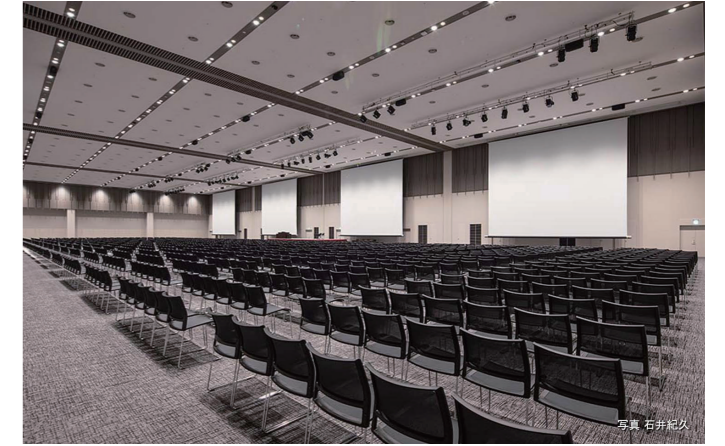


写真 石井紀久

コンベンションホール

コンベンションホールは広さ約2,700㎡。分割利用も可能でさまざまな利用形態に対応が可能。このほか、大中小さまざまなタイプの会議室も用意し、大型MICEから小規模会議まであらゆるニーズに対応する。

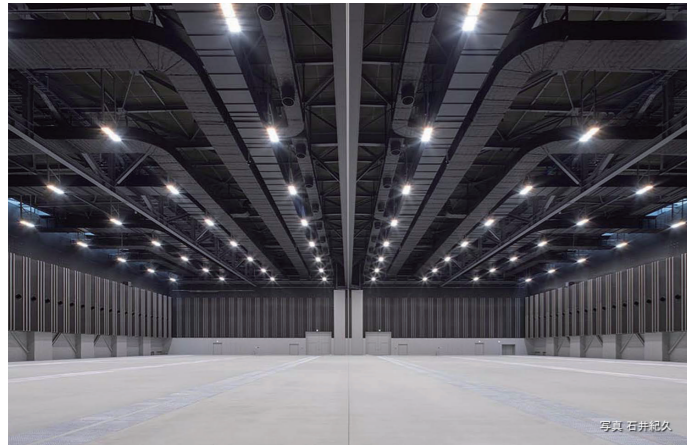


写真 石井紀久

イベント・展示ホール

イベント・展示ホールは、広さ約3,800㎡でコンサートなどにも対応可能。両サイドにあるトップライトが照明の補助的な役割を果たし、換気も可能で省エネに貢献している。



トイレ入口

1Fトイレは、ホワイエの左右2ヶ所に配置。周辺の空間デザインになじみながらも、大きくわかりやすいサイン。入口の奥が明るくなっているため、自然と誘導される。



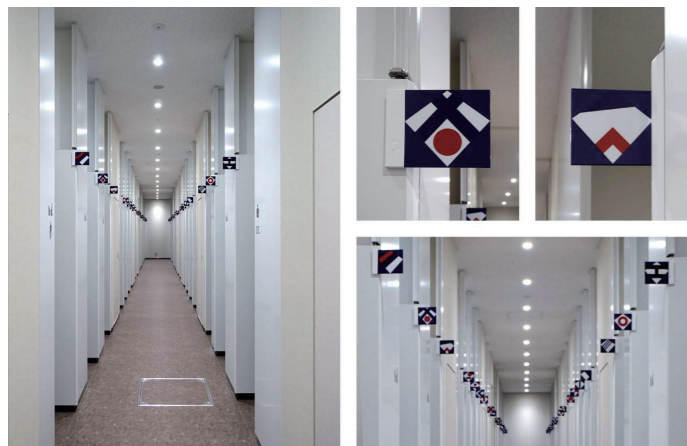
女性トイレ 全体

混雑時にもすれ違いやすい、ゆとりの空間を確保。洗面カウンター下のパネルを斜めにし、足元の寄り付きやすさに配慮、鏡・洗面器に近づきやすくしている。



女性トイレ パウダーコーナー

爽やかさと温かみを感じるパウダーコーナー。カウンターの高さは、お化粧直し時の手の動きや視線などを考慮して、一般的な高さよりもやや高めに設定。カウンター下のフックにも、荷物が掛けやすくなっている。



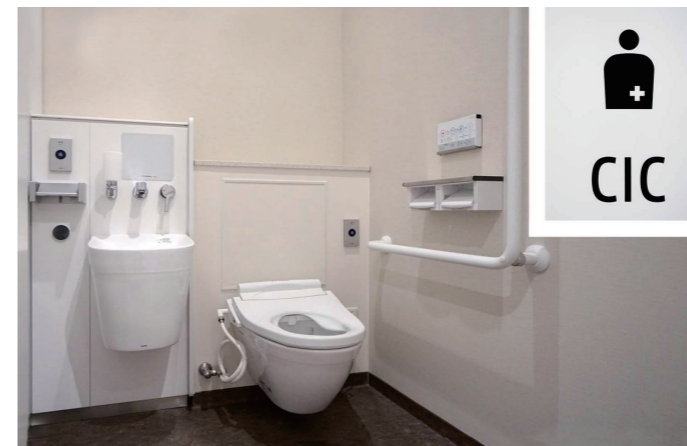
女性トイレ 大便器コーナー

長崎伝統の風「ハタ」をモチーフにしたブースのサインは、扉の開閉と連動して向きが変わり、空き状況がひと目でわかるよう工夫されている。さまざまな図柄があり、利用者を楽しませている。



女性トイレ 大便器ブース

出入口に近く、アプローチしやすい手前側のブースに、ベビーチェアや手すりを設置している。「高齢者優先」がわかるサインも掲示している。



女性トイレ CICブース

オストメイト、自己導尿をされる方に配慮したブースを各フロアの男女トイレに1ヶ所ずつ用意。「CIC」とはclean intermittent catheterizationの頭文字であり、自己導尿法の「清潔間欠導尿法」のことを表す。



女性トイレ 大便器コーナー

女性トイレの中ほどに、通常はクローズされている男性トイレへの通路があり、女性客が多いイベント時などに、男性トイレの一部を女性トイレへと変更ができる可変型となっている。

出島メッセ長崎



男性トイレ 全体

トイレ全体が見渡せ、空き状況がひと目でわかるレイアウト。小便器は、シンプルなデザインと節水機能を両立し、床面の清掃性がよい壁掛型の自動洗浄小便器を設置している。



男性トイレ 洗面・小便器コーナー

キャリーバックなどを持って利用することを想定し、小便器の間隔を広めに確保。洗面コーナーの左右にも荷物配慮として、スペースを確保している。



大便器コーナー

点検や修繕が必要な場合などに、施設担当者がどのブースであるか情報共有しやすいよう、1・2Fのすべての大便器ブースにナンバリングしている。



男性トイレ 大便器ブース

すべてのブースに、洋式便器とウォシュレットを設置。床の清掃性がよい壁掛式で、床材を巻き上げ施工し、清掃性に配慮している。



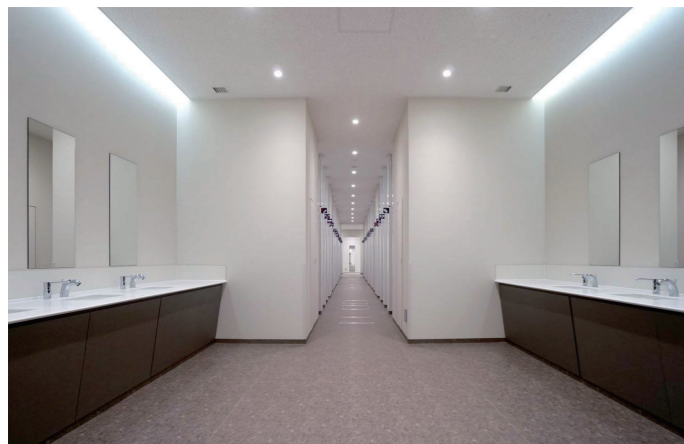
みんなのトイレ

性的マイノリティへの対応も視野に入れた「みんなのトイレ」を設置。車いす使用者やオストメイトをはじめ、さまざまな利用者を想定した設備を整えている。



1F北側 トイレ図面

女性客が多いイベント時など、状況に応じて男性トイレの一部を女性トイレに変更できる可変型。



女性トイレ 全体

南側のトイレは出入口を2ヶ所設けており、混雑時など状況に応じて一方通行の運用も可能なレイアウトとなっている。トイレ内の壁や手すりなどの手で触る部分は抗菌仕様とし、衛生性にも配慮している。



みんなのトイレ

車いす使用者のサインの大きさを変え、「車いす使用者優先」をわかりやすく伝えている。北側と南側では、左右勝手を変えた配置。器具は、必要な設備がパッケージされたコンパクト多機能トイレパックを設置している。



1F南側 トイレ図面

イベント・展示ホールに近い南側トイレは、出入口を2ヶ所に設けた、通り抜けが可能なレイアウト。混雑時など状況に応じて、一方通行の運用も可能。

水まわりの特長

建物の特徴

「出島メッセ長崎」は、JR長崎駅前に立地する長崎市としては初めての本格的なコンベンション施設で、歴史ある出島の名を冠した国際的な交流拠点。日常的な市民の交流拠点として機能するよう、多様な利用形態に対応可能とし、コンベンションホール、イベント・展示ホール、会議室で構成され、JR長崎駅とペDESTリアンデッキで直結する。長崎らしい建築デザインで、周辺の風景に溶け込む低層建築は、世界三大夜景の眺望を望める稲佐山を借景としつつ港町の豊かな水景と調和する。周辺の民間施設と力を集結させ、「交流の産業化による長崎創生」をキーワードに、これからの時代にふさわしい新しい交流の形をつくることで、地域のにぎわいと活力を生み出し、長崎市の魅力・ブランド力向上を目指している。

トイレの特長

トイレは、1F・2Fの北側と南側にそれぞれ配置され、さまざまな利用状況に対応できるように、男女トイレの数を変えられる可変型や、一方通行の運用ができるレイアウトなどの工夫がなされている。また、扉の開閉と連動して向きが変わり、大便器ブースの空き状況がわかりやすいフラッグ型サインの図案に、長崎伝統の風「ハタ」をモチーフにするなど、長崎らしさを演出。車いす使用者やオストメイトに配慮した「みんなのトイレ」のほか、各男女トイレにオストメイトに配慮した汚物流しや自己導尿をされる方に配慮した前広便座の設置など、さまざまな利用者への配慮を行っている。そのほか、大便器ブースにナンバリングして点検箇所をわかりやすくするなど、管理者視点でもきめ細やかな配慮がなされている。

建築概要

名称	出島メッセ長崎
所在地	長崎県長崎市尾上町4-1
施主	長崎市
運営指定管理者	株式会社ながさきMICE
設計	日建・松林建築設計監理共同企業体
施工	建築 戸田・上滝・谷川・森美特定建設工事共同企業体
設備	株式会社九電工
竣工年月	2021年7月
敷地面積	24,160㎡
建築面積	12,930㎡
延床面積	24,720㎡
構造・階数	鉄骨造・地下1階、地上4階

おもなTOTO使用機器

- 壁掛大便器セット・フラッシュバルブ式:UAXC2C系
- ウォシュレットP:TCF58*系
- ウォシュレット アプリコットP(温風乾燥付きエコリモコン):TCF5840系
- 棚付二連紙巻器:YH702
- 自動洗浄小便器:UFS900系
- 洗面器:L505
- 台付自動水栓:TENA41A、TENA47A
- 水石けん入れ:TLK05203J
- クリーンドライ(ハンドドライヤー):TYC420W、TYC320W
- コンパクト多機能トイレパック:UADAK21系
- コンパクトオストメイトパック:UAS8*系
- ベビーチェア:YKA16S